



医療

心不全（拡張不全）の症状と注意点

Q 先日、姉が心不全（拡張不全）と診断されました。どのような病気ですか？（60歳代女性）

A 心臓には、血液を循環させるための2つの機能が 있습니다。1つは、心臓が収縮することによって全身へ血液を送り出す「収縮機能」です。もう1つは、全身から心臓に戻ってきた血液を柔軟に受け入れる能力で「拡張機能」といいます。心臓は、この2つの機能が正常に働くことにより、全身に血液を送るポンプとしての役割を果たしています。この役割を十分に果たせなくなつた状態

を心不全といえます。

以前は、「収縮機能不全」が心不全の主な原因と考えられてきましたが、高齢になると、若年者と比較して、収縮機能が保たれているにもかかわらず、「拡張機能不全」に伴う心不全の割合が多いことがわかってきました。加齢に伴って、心臓が硬くなり十分に拡張することができないためと考えられています。高齢者、女性、また高血圧、糖尿病、心臓の病気などの基礎疾患を持っている人は注意が必要です。「拡張機能不全」による心不全では、心

臓に取り込まれる血液の量が減るため、肺や体のさまざまなところに血液が停滞（うっ血）することになります。そのため、次のような症状が起こります。

- ▼息切れ（肺がうっ血することによる症状）
- ▼脚のむくみ（脚がうっ血することによる）
- ▼就寝時にトイレに起きる回数が増える（就寝時に腎臓への血流が増えるため）
- ▼横になると息苦しい（横になると下半身からの血液が戻りやすく、肺のうっ血が起きるため）

心臓の異常を思わせるような胸の痛みなどの症状が

出ないことが多いので、潜在的な患者数はかなり多いと思われます。風邪をきっかけに急激に症状が悪化したり、放置したまま重症化してしまうケースも少なくありません。息切れなどの症状があっても、「歳のせいだから仕方ない」「体力が落ちただけだろう」と見過ごしてしまいがちです。わずかなサインを見逃さず、いつもと違う症状が続くようであれば早めにかかりつけ医に相談して検査を受けるようにして下さい。

医師 妹尾愛子

ならいま専科

まんが：A2Cエーツシー

